

ミュージアムパーク茨城県自然博物館  
平成27年度第1回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規程に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されております。

委員は13名で、任期は2年となっております。うち1名は一般公募により選出されています。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催されています。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

平成27年11月6日（金）14時00分～15時30分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

加茂明委員，沢辺幾子委員，関実枝子委員，田切美智雄委員，中川輝夫委員，筈谷美佐委員，松下博充委員，水嶋英治委員，安節子委員，山口武平委員

※事務局出席者

菅谷博館長，坂巻喜好副館長，田崎俊一副参事兼管理課長，小幡和男副参事兼企画課長，青木賢一教育課長，久松正樹資料課長，齋木均志係長，中里賢係長，小池涉首席学芸員，土屋勝主任学芸主事，國府田良樹首席学芸員，沼尻耕一郎係長，鈴木肇主任，丹波優市主事

## 5 議事概要

### (1) 議案説明 (事務局)

#### 議題

- (1) 平成27年度前期事業の報告について
- (2) 平成27年度後期事業計画について
- (3) 予算・決算などについて
- (4) その他

### (2) 質疑・意見交換

#### ○議題(1)～(4)について

#### A委員：

事務局からの説明の中で印象に残ったのが、来館者アンケートの「博物館を知った情報源」でインターネットとロコミが並んだことである。現在NHKで放送している朝ドラはインターネット上で面白いと話題になって、それがロコミになって色々な職場等で話題になっている。なので、博物館に足を運んだ皆さんが、面白かったというのを発信しやすい機会づくりのようなものをもっと必要かと思う。

この博物館は、地理的な要件があり、県外からの来館者が多いとのことだが、ここは茨城県の建物なのでもう少し茨城県のお客さんに来てもらうために、さらにうちのテレビを利用していただきたいと思う。夕方6時10分からの「茨城ニュースいば6」という番組は、インターネット調査だと全国北海道から沖縄の中で全国2位の人気の高さである。やはり茨城の人は地元民放がないこともあって、私たちの予想を遙かに上回って親近感を持ってきている。また、橋本知事もビデオで朝から夕方8時45分まで毎回チェックして、お会いするたびに注文をもらっているが、知事がそういうふうにテレビを見るということは、茨城県でどんなことが起こっていて、どんなことに関心が寄せられているかをテレビで確認しているということ。予算にどこまで援軍できるか分からないが、色々な企画展や、昨年の20周年記念イベントなど、そういったことを行う時に積極的に声をかけていただきたい。

最後に、今日もここに来る前の午前中に、小学校5年生が大型バス3台で水戸放送局に来て、生出演した。私が3年前に水戸放送局に着任した時に、他県では20年か30年前に終わっていることなのでやめさせようとしたが、現在も続いている。茨城県中の小学校5年生が入れ替わり立ち替わり、緊張しながら一生懸命練習してテレビに出ている。それはどういうことかと言うと、小学校の関係者の皆さん、出演する5年生の子どもたちの親は

みんなお昼前に NHK を観ているということである。なので、お昼前の時間をもう少し利用していただいて、坂東市にはこういう博物館があるということを広報する機会として利用していただきたい。そのためには、若い学芸員の方が非常に熱心にやっていることをいつも感じているので、茨城県の他の美術館の学芸員の方で、出演するたびにうまくなる方もいらっしゃるので、是非水戸放送局まで、若い学芸員の方にいらしていただいて、魅力的な企画展のこういう所が見どころだということを訴えてもらいたい。そうすると生出演している学校の関係者とか茨城県中の職員室の先生方もご覧になっているので、博物館に行こうかというきっかけになるかと思う。

B委員：

先日の水害の際に、博物館の持っている知見が生かされなかったのか、または生かすことができるのかというのを伺いたい。この博物館では地学的なことを研究されているようなので、それが防災減災に生かされればよいと思う。

また、森林湖沼環境税を活用された活動をしているということだが、県内で森林というところでも県北のほうに目がいきがちだが、県西県南にも低地林という美しい落葉の山や林が沢山ある。なので、博物館の施設内の活動だけでなく、施設外での活動も今後考えていただきたい。

事務局：

今回の水害に博物館の知見が生かされたのかというと、直接的には生かすことができなかったというのが実際のところだ。博物館では、今回の水害もそうだが、3.11の地震など、自然災害について色々な切り口で調査して、データを蓄積しながら企画展で紹介したいと考えている。

今回の水害については、3.11の時に標本レスキューという活動を行ったように、被害を受けた役所等の書類関係の救出作業に携わった。今後博物館で防災減災にどのように取り組んでいくかは大きな課題であると思う。

C委員：

私は常総市から参りました。この度の水害では温かい御支援や御言葉をいただき、本当にありがとうございます。常総市には5つの幼稚園があり、私のいる幼稚園は西地区にあるので、全く被害はなかった。東地区の3園が被害にあい、3園は床上浸水して、玉幼稚園は1メートル25くらいまで水が来た。もう一カ所は御城幼稚園というところで、この幼稚園も1メートルくらいまで水が来た。幸いにも子どもたちがいない時の水害だったので、子どもたちは全員無事で、今は1園だけ無事だった豊田幼稚園に3園の子が通っている。やはり子どもたちに心の痛手というのがあり、雨が續くと「また溢れない？」などと、まだまだ不安になる子もいる。常総市内に住んでいて被害にあった先生たちもいるが、子ど

もたちの元気をもらって頑張っている。現在再建に向けて頑張っており、来年の3月には元の幼稚園に戻れることになっている。

私は幼稚園の立場からしか意見が言えないが、毎年5園の幼稚園で自然博物館は利用させていただいている。まだ年齢が小さく3歳の子どもからいるので、2学期、3学期の落ち着いた時に遠足を予定して来ている。やはり子どもたちなので、水槽のある所とか、恐竜のある所が本当に人気があって、本当は大きな声を出してはいけないのに、騒ぎながら喜んで見させていただいている。晴れている日は外の広場に行って、トランポリンを楽しんだりしている。しかし、雨の日は館内しか回ることができなくて、お弁当を食べるのに、セミナーハウスしか利用できない。そして、幼稚園の来館者は年々増えていて、すごく混雑していて、お昼時は一緒の時間なので、混雑してなかなか食べられないこともあるので、昼食を食べる所をもう少し用意していただけたらよいと思う。

事務局：

昼食場所については、大変頭が痛い問題で、雨の場合のみ博物館に来る団体も多い。昼食場所の部屋がすごく混雑しているというのは仰るとおりで、できるだけ3階の映像ホールを開放するなどして対応しているが、やはり追いつかず、バスの中で食べてもらうこともある。将来的に、昼食を食べる部屋を中心に考えるのは博物館としては難しいので、なんらかの工夫で拡大して利用できるようにしていきたい。

D委員：

TXの中吊りやTX各駅でのPRといったことは引き続き行ってもらいたいと思う。また、予算との関係もあると思うが、イベントなどをする時には、秋葉原にちょっとした空き地があるので、そこで恐竜などを展示して博物館を宣伝すればインパクトになるだろうし、非常にいいと思う。博物館でまだ行っていないTXを利用したPRを考えたほうがよいと思う。

また、会議資料を見ると、博物館にいらっしゃる方の構成は若い人が多く、やはり子ども向けというイメージが強い。実は私は昔、生物同好会というものに所属しており、博物館で蝶の標本などを見せていただくと昔の血が騒ぎ、楽しく見学させていただいている。そこで、分析などはしていないが、高齢者などの年齢層に対してこれまでとは違う誘客を行っても面白いのではと思う。私たちTXは人口減少の中でも乗客数が増えているが、その中の割合はお子さんが多いということなので、そういったことも踏まえながらやられたらなと思う。

もう一つは、博物館は24時間開館するのは難しいとしても、生きているものは24時間動いているわけである。例えば、私は県北の花園神社に夜ムササビを見に行っていたことがある。ここにはムササビはいないかもしれないが、夏だったらカブトムシとかゴキブリなどを見る機会があれば良いのではないか。

E委員：

秋葉原の広場というのは、無料で使えるのか。

D委員：

お安くさせていただく。

E委員：

無料をお願いしたい。

D委員：

無料をご利用ください。

事務局：

秋葉原の TX プラザは TX 開業以来ずっと利用させていただいていたが、実は昨年 20 周年でイベントが立て込んだことで、TX プラザを利用できなかった。今年も昨年に引き続き TX プラザは利用させていただかない状況になっているが、また今後利用したい。

D委員：

TX プラザとは別に、今年 TX 開業 10 周年で、新たにイベント会場を作った。非常に注目される場所で結構広い。

事務局：

当館の特徴で小学校低学年と 30 台後半の両親と家族 4 人くらいで来て頂くのが客層の中心というのはアンケートの統計で大体分かっているが、今後の誘客ターゲットについては、リタイヤされた高齢者への対応の強化、また小学生まではお父さんお母さんと結構来てくれるが、中高大となると来てくれなくなってしまうので、教育課中心でジュニア学芸員や中 1 フリーパスなどで対応していきたいと考えている。

ムササビについては、博物館でも花園神社のムササビを取材しており、県北地域の自然を紹介する映画でもムササビを 1 シーンに入れている。館内では毎年、「オールナイト昆虫観察」や、ここ数年はやっていないが「キャンプディノ」といって恐竜のレプリカの下で夜泊まってみるとか、そんなイベントを計画実施したこともあるので、ご意見を参考にさせていただき、普段の博物館では体験できないようなイベント等を仕掛けていって、新たな博物館の面白い面を見てもらいたい。

E委員：

「キャンプディノ」というのはすでに実施したのか。

事務局：

何回か今までにやって、全く広報しなくても「オールナイト昆虫観察」と「キャンプディノ」は募集定員の10倍くらいのお客様が集まってしまうような、人気のイベントになるので、体制を整えられれば毎年とか複数回実施できるよう、また検討していきたい。

E委員：

横浜歴史博物館の附属に大塚遺跡というのがあって、その遺跡は縄文式の家屋というか穴があって、そこに夏休み親子で泊まるというイベントを企画して、5組限定で募集したら500組くらい来てしまっていて断るのに大変な思いをした。それを2、3年やって、だんだん募集人数を増やしていったが、面白い体験なので、是非、茨城県自然博物館がナイトミュージアムに変身したというような企画を実施していただきたいと思う。

F委員：

県外の見学者が大変多くなったというのは、本当に素晴らしいことだと思う。

林政課との連携による学習体験は、15団体の応募があったということだが、これは県外県内どちらから来たのかということを知りたい。

以前にリケジョの話をしたことがあるが、内閣府の男女共同参画推進事業として、今年は8件ほど決まったようだが、相変わらずその中には理系の女子のシンポジウムや進路指導、進路の方向付け、そういう内容が1/4ほど組み込まれている。対象は中学生及びその保護者、高校生、大学生、大学院生、先生である。そこには日本女性科学者の会という団体が応募して審査を通った企画が一つと、奈良県立医科大学の主催で、女子中高生の医療分野進路選択支援という名目の事業が一つあった。このように理系に進む若い人達を大きく育てたいという意欲が内閣府の中にみなぎっているのがよく分かる。せっかくこのような立派な茨城県の県立博物館の施設と、館長、充実した先生方の力が揃っているのに、是非何らかの形で理系の進学者、進路を選ぶ方達の方向付けに力が発揮できればよいと思う。

E委員：

中1フリーパスは発行したが、ミュージアムパーク茨城県自然博物館リケジョ友の会とかいうのはできるのか。

事務局：

大変重要な施策として内閣府が行っているようだが、当館として何ができるかというところ、例えば現在、当館が受け入れている学芸員実習生の半数くらいが女性である。実習のあとも、せっかくこういう機会をもったんだから学芸員の仕事をしてくださいと言っているが、

リケジョのためだけに博物館でなにかできるかと言うと、今すぐ思いつく返答ができない。重要な認識があるので、なにかチャンスがあれば、委員の先生方に御意見、御指導をいただきたいと思う。

事務局：

最初の質問で、林業体験は、県の森林湖沼環境税を使つての事業なので、募集要項は林政課で取りまとめているが、学校だけとは限らないが県内の団体対象ということで実施している。

E委員：

2年ほど前に、JSTが理系女子のための企画を実施して、私の所も200人の中高生の女の子を筑波大に呼んで、2泊3日か3泊4日で、筑波山の青木屋というところに泊まった。私がトップバッターを務めて、博物館は面白いところだよという話をしたが、何を話してもゲラゲラ笑っていた。女の子だけというのは私も抵抗感があったが、1回やってみると面白い。どんなことでも可能性はあると思う。

G委員：

私もかつてのリケジョでございます。こちらにも女性の学芸員の方がいらっしゃると思うが、キャリア教育のようなものの一環で、リケジョカフェじゃないが、県内の中高生の子供学生の方が、例えば夏休みなどに、学芸員さんと職業選択や進路などについて話をする場があったらどうかと今の話を伺って思った。

私は中学生、小学生の子どもがいるので、利用者が多い層でまさに家族4人で来ているが、その立場からこうだったらいいなという意見ができたらいいなと思う。

まず葉っぱ展のほうに伺って、ボランティアさんが対応した1万4千人のうちに私も入っている。大人もいいですよと言われたので、子どもと一緒に参加できて、ボランティアさんとお話しもできて、コミュニケーションをとりながら何か出来るのはすごくいいなと思った。どうしても博物館の展示は、視覚優位というか、見る読むが中心で、多分お子さんの中には見て覚えるのが得意なお子さんと、字を読んで覚えるのが得意なお子さんと、あともう一つ耳から聞いて何かを学ぶのが得意なお子さんに分かれると思うが、耳から情報を得て何か学ぶお子さんには博物館の展示がちょっと難しいと思うことがあったので、こういった直接職員さんなりボランティアさんなりが話をして学ぶ場、何か聞いて学ぶ場というのが、展示の中にあつたらいいなと思っている。

あともう一つ、企画展の展示解説書についていくつか伺いたいが、この冊子の発行部数と売店での費用と収入はどうなっていて、どんな方が主に購入されているのか。

事務局：

企画展の展示解説書は、館のほうでは現在 1,500 部発行して、全国の関係機関に配布するほか、それぞれの企画展の協力者にお礼をこめて配布し、その他協議会委員の先生も含めて協力者の皆様に毎回配っている。残部は、視察で来て頂いた博物館や関係機関から、10 年前の企画展の展示解説書について問合せがあった時などのために、少し残している。

ミュージアムショップは、企画展によって 400 部から 500 部印刷しており、人気がある企画展は場合によっては 1,000 部くらい売れる時もあるので、その時は増刷する。美術館などでは見に来るお客さんよりも図録を買うお客さんのほうが多いというようなことを聞いたことがあり、我々博物館の薄くて安い冊子よりもあんなに厚い冊子が売れるのは不思議だと思くらい美術館の図録は売れるようである。とりあえずショップでは、400 部から 500 部、人気の様子を予想しながら印刷して、8 割から 9 割くらい売れて少し会期末まで残るようなペースでやっている。

内容については、40 ページということで、これ以上絶対増やさないように、各チームが内容を厳選して、コンパクトにまとめる形で展示の準備と並行して進めている。

G委員：

まさに美術館の図録の話をしたいなと思う。博物館の図録は今のままだもとても面白いが、中身が真面目な感じかなと前から思っていた。多分こういうものにはファンがいる。いい写真たくさんあるので、写真が大きくビジュアル的に美しいものを同じページ数で作れば、これを本当に買うためにここに来たいという年配の方がいるのではと思った。内容よりも見て楽しめる写真集的な、まさに美術館の図録的な要素もあってもいいのかなと思う。また、中学生と小学生に色々意見を聞いてみたが、中学生から非常に厳しい意見があり、面白くないということだった。男の子ばかりに聞いたので、女の子とはちょっと違うかもしれないが、じゃあどうしたらいいと思うと聞いたら、一様に漫画があればとりあえず見てみる気がするという意見であった。漫画がちょっと付いていると、これがどこに書いてあるだろうと字のほうを読むとのこと。博物館の中にあるフリーでとれる展示ガイドがいくつかあると思うが、あれも最初に手に取ってみようというきっかけがあれば読むということをも男の子たちが盛んに言っていたので、機会があれば参考にしてもらいたい。

事務局：

図録の性格と内容については、実際のをきちんと解説するというのが基本となっている。なので各博物館の図録というのは凝っているし、正確性も要求される。なので一方で面白みがないということもある。例えば葉っぱ展だと、案内役としてキャラクターを入れたりして工夫はしているが、葉っぱの働きから全部書くという形でやっている。確かに漫画は取っつきやすい部分があり、今回の企画展も、キャラクターを使ったのが素晴らしいという評価を受けて、嫌われものというテーマに大分生きているという面もある。しかし図録そのものにどう取り入れるかということ、そういう工夫は確かに必要だが、ある一定



の基準があって、色んな方が来た時になんだこれはと言われる面もある。ただこれも前向きに捉えて、もう少し工夫がないかということを考えて、分かり易い図録、魅力ある図録を作っていきたい。

H委員：

私は総合調査で色々とお世話になっている。私の仕事にも御協力いただいております。そちらのお礼をまず申し上げます。

会議資料1にあった、インターネットで知ったという初めての方がかなり多くなったという説明を受けたが、実際に企画展の情報を知っているかというのを見ると10ページにあるが、茨城県はポスターがやはり41.0%で多い。この辺はデータの齟齬がどこかに潜んでいるような気がする。県外の方は当然ポスターを見る機会がないから、そちらはインターネットが大きくなるのは当たり前だが、茨城県内に関して言うとインターネットはまだまだ主流じゃないといった感じがする。なのでかなり多面的に広告する必要があると見ているが、この辺はどう判断されているか。

もう一つは、歳入と歳出の件だが、今年度は途中だが有料入館者がかなり多くなっているということと、予算は少しずつ回復してきているがなかなか伸びないということだが、一番最後の32ページを見ると、平成26年度の決算が出ていて、平成17年度より少し下がった程度になっている。今年度は有料入館者が増えるので、決算額はどの程度の所に見込まれるのか。その辺が分かれば、これだけ余ってるという重要なデータになり、県のほうに予算を増やしてもらえるようアピールできるのではと思う。

それからもう一点は、ICT化に対応した博物館が中期計画2015で出されているので、これは是非ともどんどん進めてください。それに関わって、色んなアンケートなどお客様に対してデータを取ることがあると思うが、これもICT化というのを考えてるのか聞きたい。最近では色んな形でやり始めている所も多くなっているようで、是非ということ。

事務局：

アンケート調査の結果は、茨城、千葉、埼玉を比べると、先生のおっしゃるとおり、ポスターは茨城中心に貼られているのでこういう傾向かと思うが、県外でも近隣の地域にはポスターを配っている。今日お配りした年報の29ページにホームページアクセス件数の推移がある。E委員には常日頃からホームページのアクセス件数は立派な利用者だから、入館者と同じレベルで入館者数に数えなければならないと御指導を受けているが、入館者の統計は開館以来やってきているのでそれはそれで、ホームページのアクセス件数の統計については29ページに書いてあるような形で、統計を重ねていきたいと考えている。アクセス件数の推移を見ると頭打ちかなとも思うが、10年前には考えられなかった数字になっていて、昨年度は36万を超えて、今年度はもしかしたら40万に近づくようなアクセス件数になるかなと思われ、これを見てもインターネットの重要性は良く分かる。

館内の入館者に対するアンケートについては、開館以来の同じやり方でずっと比べていきたいと考えていて、旧式のやり方でずっとアンケートとっているが、また別な傾向を見るためには、最新の ICT 化でアンケートというのを考えていかなきゃいけないと感じたので、ぜひやっていきたいと思う。

事務局：

先ほど会議資料 1 の 32 ページの歳入予算額について質問が出たが、26 年度で言えば 7,300 万円ほど決算額としてあげている。そのうち 500 万円くらいは建物使用料ということで行政財産の使用料で、残りの収入が入館料収入と捉えていただければと思う。そうすると 7,300 万円から 500 万円を引くと、6,800 万円くらいの金額が 26 年度の入館料収入というふうになる。入館料収入は、平成 20 年以降、ずっと 6000 万円だったが、仮に今年度のペースでいくと 9 月時点で昨年よりも 700 万円ほどすでに収入として上回っている。なので仮にこのペースでいくと、昨年度の 6,800 万円に 700 万円加えて 7,500 万円ほどの収入が確保できるのかなという期待を持っている。仮にそうなれば平成 19 年度以来の 7,000 万円台の回復ということになるので、ここにきて収入としては大きく上がっている形になっている。収入を確保できないと歳出もそれだけ抑制しなければならないが、これだけの収入が上がっていれば歳出のほうも当初予算が満額使えると思うので、これらの経費については施設の維持管理のほうで、当初予定がなかった部分でも手を入れていって、できるだけ維持補修に活用していきたいと考えている。

I 委員：

自然博物館は子どもの感覚が一番研ぎ澄まされて、自然に親しむことができる所だと思う。これが重要だと思っていて、実はこれは父親と母親が子どもに自分の気持ちを伝える場所でもある。そのような発信を幼稚園、小学校、中学校にどれだけ発信するかというのが大事である。私は 2 年前に孫を博物館に連れて来たが、博物館の外側にあれほど広大な広い公園的なものをもっていることに驚いた。そこで男の子は夢中で遊んでいた。しかも野外施設には化石発掘の体験ができるところがある。ああいうところをどんどん PR すべきだと思う。子どもの体験というのはその年齢でしかできないことである。そういうことをするという点に関して、自然博物館は最高の施設だと思う。恐竜が好きな子もいれば、植物が好きな子もいれば、魚が好きな子もいれば、色んな子どもがいる。それをどれだけ今子育てしている両親に発信していくか。

提案をしたかったのだが、自然や公園の映像を沢山流して広報してほしい。先ほど 3 世代で来たら記念品あげるという事業の説明があったが、3 世代で来るとおじいちゃん、おばあちゃんの活躍の場でもある。おじいちゃん、おばあちゃんが昔こういうことをしたと話すことが、子どもを原点に戻すことだと思う。そういう場所が博物館だと思う。

提案だが、館内の展示の説明を子どもにさせたらどうかと思う。今日博物館に来た時、

バスが 10 台くらい止まっていた。幼稚園か小学校が来ていた。小学生は無理かも知れないが、中学生や高校生になれば自分はこの説明がしたいということになる。そういう説明をして失敗してもいいと思う。茨城でも古代ゾウを発掘した方がいるが、子どもがその方にあこがれるような場所に自然博物館がなれるかなと思う。是非そういうことをやっていただきたいと思う。

ホームページを先ほど見たが、ホームページでどれだけ楽しいことを発信しているか、子どもがどう成長したかというのを是非発信していただきたい。小学校の時ここに来て、発掘に興味を持って、こういう活動をした、それは人間形成にどういう影響があった、そういう発信をここでできるかなと思う。